

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	106	科目名	化学物質総合管理学3		サブネーム	労働現場におけるリスク評価と管理		
連携機関名	産業医科大学	レベル	中級～上級		講義枠	土曜日	講義時間	14:00～15:30、15:50～17:20
科目概要(300字)	わが国の産業現場には57,000以上の化学物質が使用されているといわれており、これらの化学物質を取り扱う作業者の健康影響を防止するため、さまざまな労働衛生対策が行われている。また、最近では化学物質だけでなく、バイオエアロゾルなどの生物因子も問題になりつつある。また、従来法規遵守型であったわが国の労働衛生対策が、労働安全衛生マネジメントシステムによる自主管理方式の導入が進みつつある。本講座では、有害物質を取り扱う作業現場に存在するさまざまなリスクの評価、管理の方法について解説する。							

サブタイトル	Nº	講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属
概論	1	はじめに	講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。	4月15日	共通講義棟 1号館 102教室	保利 一	産業医科大学
	2	労働衛生管理概論	労働衛生の3管理、労働衛生教育など、労働衛生管理の基本について解説する。	4月15日		保利 一	
有害物質の性質	3	粉じんとアスベスト	労働現場に存在する粉じん、アスベストなどの粒子状物質や繊維状物質の物理化学的性質およびそれらの生体への影響について解説する。	4月22日		森本泰夫	
	4	有機溶剤および有害化学物質	労働現場で汎用されている有機溶剤および有害化学物質の性質、環境中での挙動および生体への影響について解説する。	4月22日		嵐谷奎一	
影響評価	5	バイオロジカルモニタリング	尿、血液などの生体試料から曝露の程度を推定する方法として有用なバイオロジカルモニタリングについて解説する。	5月6日		樺田尚樹	
	6	生物因子に対する評価と対策	バイオエアロゾル(微生物、カビ、細菌等)の健康影響および環境中に浮遊するバイオエアロゾルの測定法について解説する。	5月6日		石松維世	
	7	影響評価における新たな視点(1)	有機溶剤を使用する労働現場では、作業者の健康管理のため特殊健診が行われている。曝露環境が低濃度・長期化してきたことをふまえ、化学物質の健康影響を新しい指標で考える必要が出てきた。(1)では、(2)のモデルを理解するための基礎知識として、神経の興奮性、神経情報伝達のしくみについて説明する。	5月13日		笛田由紀子	
	8	影響評価における新たな視点(2)	ガス状化学物質の生体影響を動物モデルでどのように解析しているか説明する。直接モデルとして卵母細胞発現系モデルと脳スライスモデル、慢性モデルとして吸入曝露モデル、胎児曝露モデルを紹介する。それぞれのモデルの長所と短所をどのように有機的にリンクさせていくか議論する。	5月13日		笛田由紀子	
作業環境対策	9	作業環境の評価と改善	有害物質を取り扱う作業環境を評価するための測定法の概要およびそれに基づく作業環境改善の手法について述べる。	5月20日		保利 一	
	10	労働衛生保護具	有害物質から作業者を保護するために汎用されている防じん、防毒マスクなどの労働衛生保護具について、特徴、性能、使用上の注意等について述べる。	5月20日		保利 一	
	11	職場における喫煙対策	職場において受動喫煙を防止することはきわめて重要である。ここでは職場における喫煙対策のガイドラインと、それに基づく喫煙対策の方法について解説する。	5月27日 11:50～ 13:20	理学部 3号館 701教室	大和 浩	
マネジメントシステム	12	労働安全衛生マネジメントシステム(1)	近年、職場の労働衛生管理の方法として導入する事業所が増加している労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の基本的考え方について概説する。	5月27日	共通講義棟 3号館 105教室	伊藤昭好	エクソンモービル (有)
	13	労働安全衛生マネジメントシステム(2)	職場において労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、実施する場合に考慮すべき事項および運用の実際について述べる。	5月27日		伊藤昭好	
	14	現場におけるリスク管理の実際(1)	職場における化学物質のリスク評価、リスク管理の方法について、現場における事例に基づき概説する。	6月3日		森 晃爾	
	15	現場におけるリスク管理の実際(2)	職場における化学物質のリスク評価、リスク管理の方法について、現場における事例を交えながら概説する。	6月3日		橋本晴男	